

事業所における自己評価結果(公表)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点や課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		基準に基づいた施設となっています。
	②	職員の配置数は適切であるか	○		配置基準に基づいた職員配置を行っています。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		トイレ、手洗い場、個々のロッカー等にイラストを貼り、視覚的に分かりやすくしています。利用の対象は、歩行可能な子どもですが、入口の段差は低く、スムーズに移動できています。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		遊具類は適切に収納し、整理された保育室となっています。活動に合わせて、その都度机やイスを準備する等、環境の整備を行っています。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		年間計画を立て、職員間で年間の反省を行い、次年度の業務に生かしています。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		保護者向けのアンケートを実施し、意見を参考にしています。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		西部療育センターのホームページで公開しています。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	外部評価については、現在行っていません。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		西部療育センターで実施している研修の他、外部の研修にも参加しています。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		個々の聞き取りを充分に行って作成しています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		西部療育センターで評価されたアセスメントを踏まえて、事業所としても評価を行っています。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		それぞれのお子さんの発達段階、特性に応じた支援内容を盛り込むことができるよう、心がけています。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		保育の中で、個別の計画に沿った課題設定や、支援ができるようにしています。

適切な支援の提供	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		職員間で検討しながら、プログラムを検討しています。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		年間を通して、季節の行事等も取り入れながら、様々な活動や経験ができるようにしています。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		少人数のグループ活動が主ですが、自由遊び時等には、それぞれのお子さんに応じた個別活動を取り入れています。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		朝礼の中で、流れや役割の確認を行っています。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		気付いた点を職員間で話し、情報の共有を行っています。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		個人記録に細かく記録をしています。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		半期に一度個別面談を行い、モニタリングと支援計画の見直しをしています。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		利用計画はセルフプランで行っていますが、西部療育センターとの密な連携は図っています。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		西部療育センターを中心に連携を取っています。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		必要に応じて様々な機関と連携を取り合い、情報共有しながら支援を展開できるようにしています。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		保護者との情報共有の中で、主治医からの指示等を明確にした上で、保護者を通じ連絡できるようにしています。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		必要に応じて保育所、幼稚園への訪問を実施する等して、関係機関との情報共有を行っています。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		○	3歳児を主に受け入れている為、現在は行っていません。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		保護者支援における発達障がい者支援センターの職員や、西部療育センターの言語聴覚士、作業療法士による支援に併せて職員への助言を受けています。西部療育センターの医師による研修を必要に応じて実施しています。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	幼稚園、保育園との並行通園の子がほとんどの為、事業所としては企画していません。

関係機関や保護者との連携	㉓	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		西部療育センターと定期的に連絡を取っており、分園の事業に係る課題も踏まえて、センターが関係部会と連携しています。
	㉔	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		単独グループは、送迎時に様子を報告しています。また、定期的(月1回)にグループ懇談を行っています。親子グループは、毎回活動の振り返りを行い、その際に話しをしています。
	㉕	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		年間、数度の学習会(R5年度は3回)や、ワークショップを開催しています。
保護者への説明責任等	㉖	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		利用開始に当たり、運営規程の内容を踏まえた重要事項説明書と契約書の説明をしています。
	㉗	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」に基づいて個別支援計画を作成し、保護者の同意を得ています。説明時には、ガイドラインの提示を行っています。
	㉘	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		随時、相談に応じています。
	㉙	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		父母の会はありませんが、学習会やグループ懇談、ワークショップ等を開催することで、保護者交流の機会を設けています。
	㉚	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		西部療育センターと連携し、速やかに対応しています。
	㉛	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		定期的に「おたより」を発行しています。(単独グループ)
	㉜	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		個人情報取扱規定、マニュアルに基づき、対応に注意しています。
	㉝	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		子どもの特性に応じて、絵カード等の視覚的な手がかりを活用することや、簡潔なことばかけ等、情報伝達の配慮をしています。
	㉞	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		実施できていません。地域の店舗等との触れ合い等の取り組みを企画していきます。
	非常時等の対応	㉟	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○	
㊱		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		定期的に避難訓練を実施しています。(単独グループ)
㊲		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		利用開始の際、保護者に確認をしています。

非常時等の対応	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		緊急連絡票に医師の指示に基づいた情報を記載し、職員間で情報共有を行っています。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		日々の業務日誌やヒヤリハット事例集に記入をし、情報共有、再発防止に努めています。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		西部療育センターで実施する職場研修に参加しています。また、西部療育センターとの定期的な連絡を通して、事業所の運営が閉鎖的にならないようにしています。所内で定期的なケース会議を行っています。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		事故の防止、緊急時等を除き、身体拘束をしない旨、契約時に保護者に説明しています。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。